



IPBES シンポジウム

生物多様性のための持続可能な生産と消費

～ IPBES 評価報告書から見たサプライチェーン～

2018年 **11月6日** (火) 13:30 ~ 17:30 東京国際フォーラム ホールD1 (東京都千代田区丸の内3丁目5番1号)

本年3月に開催された第6回 IPBES 総会において、「生物多様性及び生態系サービスに関する地域・準地域別評価報告書」及び「土地劣化と再生に関するテーマ別評価報告書」が承諾されました。これら報告書には、生物多様性の現状とその要因、生物多様性保全や持続可能な社会構築のための対策に関するメッセージが挙げられています。また、共通するメッセージの一つとして、様々なステークホルダーが生物多様性のための持続可能な生産と消費について行動を行うことの必要性が挙げられており、土地劣化と再生に関するテーマ別評価報告書では、「生産現場と消費現場の乖離」が問題であると指摘されています。

本シンポジウムでは、IPBES 評価報告書の解説、生産現場の現状の報告、生物多様性保全に関する企業の取組の紹介をします。その後、科学者、企業、NPO、政策決定者が、持続可能な生産と消費につながる社会の構築に向けて国民一人一人ができる行動について議論します。

13:30 主催者挨拶

13:35 IPBES 事務局長ビデオメッセージ

13:40 第一部 報告

報告「生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム (IPBES) について」

香坂 玲 東北大学大学院環境科学研究科教授 / IPBES アジア・オセアニア地域評価報告書第1章統括執筆責任者

報告「IPBES アジア・オセアニア地域評価報告書の概要」

橋本 禪 東京大学大学院農学生命科学研究科准教授 / IPBES アジア・オセアニア地域評価報告書第5章執筆者

報告「IPBES 土地劣化と再生評価報告書の概要」

山形 与志樹 国立環境研究所地球環境研究センター主席研究員 / IPBES 土地劣化と再生に関するテーマ別評価報告書第7章査読編集者

14:35 休憩

14:40 第二部 講演

基調講演「土壌劣化・砂漠化の現状」

石 弘之 環境学者

講演「豊かな社会づくりのためにイオンができること」

山本 百合子 公益財団法人イオン環境財団事務局長

講演「積水ハウスの生物多様性保全戦略～生産と消費をつなぐために～」

佐々木 正顕 積水ハウス株式会社環境推進部部长

16:05 休憩

16:15 第三部 パネルディスカッション

ファシリテーター

香坂 玲 東北大学大学院環境科学研究科教授

パネリスト (五十音順)

佐々木 正顕 積水ハウス株式会社 環境推進部部长

中澤 圭一 環境省自然環境局生物多様性戦略推進室室長

橋本 禪 東京大学大学院農学生命科学研究科准教授

日比 保史 コンサベーション・インターナショナル・ジャパン代表理事

山形 与志樹 国立環境研究所地球環境研究センター主席研究員

山本 百合子 公益財団法人イオン環境財団事務局長

17:30 閉会挨拶

講演者プロフィール



石弘之

環境学者

朝日新聞編集委員。国連環境計画上級顧問（ナイロビ、バンコク）、東京大学、北海道大学各教授。ザンビア特命全権大使。この間、国際協力機構参与、東中欧環境センター理事（タバスト）などを兼務。英ロイヤルソサエティ会員。国連ゴールド賞、国連グローバル500賞などを受賞。



香坂 玲

東北大学大学院 環境科学研究科 教授

東京大学農学部卒業。ハンガリーの中東欧地域環境センター勤務後、英国で修士、ドイツ・フライブルグ大学の環境森林学部で博士号取得。生物多様性条約事務局勤務、名古屋市立大学大学院経済学研究科准教授、金沢大学大学院人間社会環境研究科准教授を経て2017年から現職。IPBESアジア・オセアニア地域アセスメント第1章統括執筆責任者（CLA）を担当。



佐々木 正顕

積水ハウス株式会社 環境推進部 部長

税理士事務所を経て1989年積水ハウスに入社し、総務部にて法務・株式部門担当。1996年から2年、関西経済連合会に出身し主任研究員として都市政策・地域振興や関西広域連携を推進。1999年の環境推進部創設により現在に至る。持続可能性を軸とする自社の環境経営事例発表など社外講演や社外委員も多数。樹木医。



中澤 圭一

環境省 自然環境局生物多様性戦略推進室 室長

1992年、環境庁（当時）に自然系技官（レンジャー）として入庁し、環境省本省と国立公園等の現場（尾瀬、松本、さいたま）で、国立公園の計画管理、野生生物保護対策等の自然環境行政に従事。中間貯蔵・環境安全事業株式会社管理部長を経て2017年8月から生物多様性戦略推進室長、2018年7月から生物多様性主流化室長併任。現在は、生物多様性基本法、生物多様性条約、生物多様性国家戦略、生物多様性の主流化に関する課題を担当。



橋本 禪

東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授

専門はランドスケープ・プランニング、農村計画、シナリオ分析。東京大学大学院農学生命科学研究科で博士号取得。マサチューセッツ工科大学、国立環境研究所、京都大学大学院農学研究科、大学院地球環境学堂（講師、准教授）を経て2015年より現職。IPBESアジア・オセアニア地域アセスメントおよび地球規模アセスメントの代表執筆、学際的専門家パネルに従事。



日比 保史

コンサベーション・インターナショナル・ジャパン 代表理事

米デューク大学環境大学院修了。野村総合研究所、国連開発計画を経て2003年より現職。2010年より本部のアジア政策担当バイスプレジデントを兼務。国際協力における環境・社会配慮、気候変動と生物多様性、自然資本、企業サステナビリティ/ESG、マルチセクター・パートナーシップ構築、非営利組織経営などが専門。世界69カ国を訪問。



山形 与志樹

国立環境研究所 地球環境研究センター 首席研究員

東京大学教養学部卒業。現在、国立環境研究所において、主に地球温暖化対策研究に取り組む。国際的研究プラットフォーム Future Earth のGCP 国際オフィス代表。IPBESやIPCCの土地利用関係報告書の執筆に参加。本学術会議連携会員（環境）、IIASA 客員研究員、北海道大学、統計数理研究所客員教授。



山本 百合子

公益財団法人イオン環境財団 事務局長
兼イオン株式会社秘書部シニアマネジャー

1988年ジャスコ株式会社（現イオン株式会社）入社 店舗・秘書広報・人事教育・採用・ディベロッパー事業・新社屋PT等を経て、2014年から現職。日本学術会議フェューチャー・アースの推進と連携に関する委員会特任連携会員を務める。

(五十音順)

(参考)

生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学 - 政策プラットフォーム

(Intergovernmental science-policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services : IPBES)

IPBESは、生物多様性と生態系サービスに関する動向を科学的に評価し、科学と政策のつながりを強化する政府間のプラットフォームとして、2012年4月に設立された政府間組織です。2018年10月1日現在、IPBESには130カ国が参加しており、事務局はドイツのボンに置かれています。科学的評価、能力開発、知見生成、政策立案支援の4つの機能を柱とし、気候変動分野で同様の活動を進めるIPCCの例から、生物多様性版のIPCCと呼ばれることもあります。

IPBESの成果物は世界中の科学者・専門家らによって執筆され、加盟国政府により構成される総会による承諾後、公表されます。設立以降、IPBES第1次作業計画に基づき、18の成果物（評価報告書等）の作成作業が進められ、これまでに以下の評価報告書の政策決定者向け要約（SPM）が承認されています。

- ・生物多様性及び生態系サービスのシナリオとモデルの方法論に関する評価報告書（2016年）
 - ・花粉媒介者、花粉媒介及び食料生産に関するテーマ別評価報告書（2016年）
 - ・生物多様性及び生態系サービスに関する地域・準地域別評価報告書（2018年）
 - ・土地劣化と再生に関するテーマ別評価報告書（2018年）
- 2019年には、生物多様性及び生態系サービスに関する地球規模評価報告書のSPMが承認される予定です。

IPBES web サイト
<http://www.ipbes.net/>

環境省 web サイト
<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/ipbes/index.html>

連絡先

環境省 自然環境局
自然環境計画課 生物多様性戦略推進室

代表	03-3581-3351
直通	03-5521-8275
室長	中澤圭一
室長補佐	中嶋健次
係長	鮫島茉莉奈